第 6 講 【中世編】イスラーム世界の形成と発展
PART2 イスラーム世界の拡大

Chapter 1　ウマイヤ朝の興亡

目標
ウマイヤ朝はどの地域にまで拡大したのかを知ろう。
ウマイヤ朝が衰退した背景を理解しよう。

1　ウマイヤ朝の成立と拡大

①**ウマイヤ朝**（661 年～ 750 年）の成立

661 年　第 4 代正統カリフの**アリー**が暗殺される

アリーと対立していたシリア総督〔　　　　　　　　　　〕がカリフの地位に就いて，〔　　　　　　　　　〕を開き，首都を**ダマスクス**に定めた

→以後，ウマイヤ家の出身者がカリフの地位を世襲するようになった（正統カリフ時代との違い）

②支配地の拡大

ウマイヤ朝成立後も征服活動が続けられ，東は**中央アジア**とインド西北部，西は**北アフリカ**を征服

711 年　**イベリア半島**に進出し，〔　　　　　　　　　　〕を滅ぼす

732 年　**フランク王国**領に進出したが，

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕に敗れる

→支配地の拡大はイベリア半島で止まった

ダマスクスのウマイヤモスク

2　ウマイヤ朝の衰退

8 世紀前半に領土の拡張が終わると，ウマイヤ家の統治に対する批判が強まってきた。

①アラブ人の特権と〔　　　　　　　　　〕の不満

A　アラブ人の特権

アラブ人は，**ジズヤ**（人頭税）と**ハラージュ**（土地税）が免除されていた

※このため，ウマイヤ朝は「**アラブ帝国**」と呼ばれる。

B　**マワーリー**の不満

非アラブ人の間にイスラーム教改宗者が増えていったが，ジズヤ・ハラージュが免除されることはなかった

→マワーリー（非アラブのムスリム）の不満が高まっていく

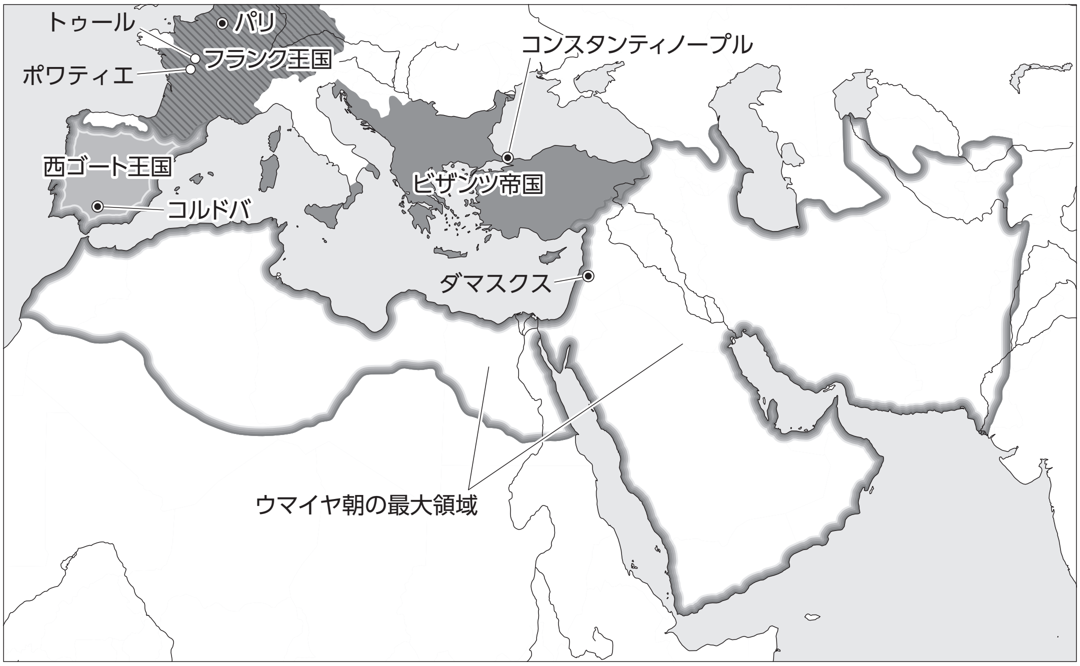
②スンナ派とシーア派の対立

A　ウマイヤ朝成立後，**ムハンマド**の血統を重視する少数派の〔　　　　　　　　〕が形成され，**アリー**（ムハンマドの従弟で娘婿）とその子孫だけがムハンマドの後継者であると主張

B　ウマイヤ朝カリフの権威を認める多数派の〔　　　　　　　　〕

→シーア派はたびたび反乱をおこしウマイヤ朝は次第に弱体化。**750年**に滅亡。

　アッバース朝が成立する



ウマイヤ朝の最大領域

まとめ　ウマイヤ朝は中央アジアからイベリア半島まで支配した。
アラブ人が特権を有したため，非アラブの改宗者やシーア派の反発を招いた。

Chapter 2　アッバース朝とイスラーム帝国

目標　アッバース朝がイスラーム帝国と呼ばれていたのはなぜだろうか。
アッバース朝の衰退の原因を理解しよう。

1　アッバース朝の成立と繁栄

①アッバース朝（750年～1258年）の成立

750年　ムハンマドの叔父の子孫のアッバース家がウマイヤ朝を滅ぼす。

〔　　　　　　　　　〕を開き，カリフ位を世襲した。

ティグリス川中流域に新都〔　　　　　　　　〕を造営

②アッバース朝の繁栄

A　アッバース朝の最盛期

あ　第5代カリフ〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕の頃に最盛期を迎える

※『**千夜一夜物語（アラビアン＝ナイト）**』の主人公の一人として知られる。

い　ビザンツ帝国に侵攻

う　**フランク王国**の**カール大帝**と使節を交換

B　国際交易と農業の発展

あ　広大な地域を支配する中で，バグダードと各地を結ぶ交通網が整備され，安全が確保された

→バグダードは国際交易の中心として繁栄

い　農地開発が積極的に行われ，灌漑により農業生産力が向上した

C　ムスリムの平等

あ　イスラーム知識人（**ウラマー**）によるイスラーム法（**シャリーア**）の体系化が進められ，シャリーアに基づく統治が行われた

い　アラブ人の特権が廃止され，ムスリムは民族にかかわらず**ジズヤ**を免除され，アラブ人であっても征服地に土地を所有する場合は**ハラージュ**が課せられた

→ムスリムの平等が実現し，ムスリム人口が急速に増大

※このため，アッバース朝は「〔　　　　　　　　　　〕」と呼ばれた。

アッバース朝の最大領域

2　アッバース朝の衰退

①後ウマイヤ朝の成立

756 年　ウマイヤ家の一族がイベリア半島へ逃れ，〔　　　　　　　　　　　　〕(756 年～ 1031 年）をおこした

→イスラーム政権分裂のはじまり。アッバース朝カリフの権威が低下しはじめる

②地方政権の成立

９世紀後半にはアッバース朝の周辺地域で地方政権が成立していった

A　マムルークの自立

アッバース朝では，〔　　　　　　　　　　〕と呼ばれるトルコ系軍人奴隷を用いてカリフの親衛隊を組織していたが，９世紀後半にはカリフを廃立するほどの力を持つようになり，地方で自立をはじめた

B　エジプトでトゥールーン朝（868 年～ 905 年）が成立

C　中央アジアにイラン系の〔　　　　　　　　　　〕(875 年～ 999 年）が成立

→地方分権化が進行し，アッバース朝は衰退していった

まとめ

アッバース朝がアラブ人と非アラブ人ムスリムの平等を達成し，ムスリムの数を増やしたため。

非アラブ人の軍事勢力が自立し，サーマーン朝などの地方政権に分裂したこと。

第６講 PART２ 確認問題

1 第４代正統カリフ・アリーの次にカリフになったのはだれか。

① ダレイオス１世　② アレクサンドロス大王
③ オクタウィアヌス　④ ムアーウィヤ

2 ウンマの合議によらずカリフ位の世襲をはじめた最初のイスラーム王朝はどれか。

① プトレマイオス朝　② クシャーナ朝
③ ウマイヤ朝　④ バビロン第１王朝

3 アラブ軍がフランク王国に敗れた戦いはどれか。

① トゥール・ポワティエ間の戦い　② マラトンの戦い
③ ニハーヴァンドの戦い　④ イッソスの戦い

4 非アラブ人のイスラーム教改宗者のことを何というか。

① ムスリム　② マワーリー
③ バラモン　④ クシャトリヤ

5 アリーとその子孫だけがムハンマドの後継者であると主張するイスラーム教の一派はどれか。

① パリサイ派　② アタナシウス派
③ シーア派　④ スンナ派

6 ウマイヤ朝を滅ぼし，新たなイスラーム政権となったのはどれか。

① 西ゴート王国　② アッバース朝
③ グプタ朝　④ ビザンツ帝国

7 『千夜一夜物語（アラビアン＝ナイト)』の主人公の一人であるカリフはだれか。

① ハールーン＝アッラシード　② ウスマーン
③ トラヤヌス帝　④ テミストクレス

8 アラブ人の特権が廃止され，ムスリムの平等が達成されたことからアッバース朝は何と呼ばれるか。

① ローマ帝国　② アラブ帝国
③ ペルシア帝国　④ イスラーム帝国

第６講　PART２　確認問題　解答

1 解答：④　アリー暗殺後に，アリーと対立していたシリア総督の**ムアーウィヤ**がカリフ位に就いた。

2 解答：③　従来の慣習を破ってウマイヤ家の出身者がカリフ位の世襲をはじめ，**ウマイヤ朝**を建てた。

3 解答：①　ウマイヤ朝のアラブ軍は**トゥール・ポワティエ間の戦い**でフランク王国に敗れ，支配地の拡大はイベリア半島で止まった。

4 解答：②　非アラブ人のイスラーム教改宗者である**マワーリー**にはジズヤ・ハラージュの納税義務があり，アラブ人との差別に対する不満が高まったことがウマイヤ朝衰退の一因となった。

5 解答：③　ウマイヤ朝カリフの権威を認める多数派のスンナ派に対して，ムハンマドの血統を重視する一派は**シーア派**と呼ばれ，少数派である。

6 解答：②　ムハンマドの叔父の子孫のアッバース家がウマイヤ朝を滅ぼし，**アッバース朝**を開いた。

7 解答：①　『千夜一夜物語（アラビアン＝ナイト）』の主人公の一人である第５代カリフの**ハールーン＝アッラシード**はアッバース朝の最盛期を築いた。ウスマーンは第３代正統カリフ。

8 解答：④　アラブ人の特権を廃止してムスリムの平等を実現したアッバース朝は「**イスラーム帝国**」と呼ばれる。「アラブ帝国」と呼ばれるのはウマイヤ朝である。